



# 清中だより

手をつなぎ 心をつむぐ みどりの清瀬

【電話】042-493-6311

【所在地】〒204-0003 東京都清瀬市中里 5-624

## 年度末に際して

校長 小池雄志郎

3月19日、卒業式を挙行了いたしました。今年も在校生の参列はありませんでしたので、卒業生のすばらしい姿に思いをはせながら、そのとき私が式辞として述べた内容とともに卒業生代表が在校生に向かって述べた内容を掲載し、皆様にお伝えいたします。

### 「卒業式式辞」

卒業生の皆さん、本日はご卒業おめでとうございます。また、ご来場の保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

さて、本日の卒業式は、例年とはちょっと異なる形での実施となりました。本来ならば在校生も参加して、多くのご来賓に見守られ、みんなで歌を歌って式を進めていくところ、形を変えて実施することとなりました。

しかし、その、形を変えてという考えは間違っているのかも知れません。本来の形、例年の形などといいますが、それが果たして本当の形だったのだろうかと思うのです。

私たちは、新型コロナウイルス感染症が流行する前の状態に、いつかは戻るだろう、流行する前の生活を早く取り戻そうと考えます。しかし、コロナのことがあってから世の中は大きく動きました。ここ最近の中学校に関することだけを見ても、例えば、学校に一人一台タブレット端末が導入されることが決定されたり、入試に郵送やウェブによる出願や合格発表が導入されたりしたわけです。

言うなれば、今まで当たり前と思っていたことが当たり前ではなくなってきたのが、今なのです。私たちは新しい時代の幕開けに生きていると言ってもよいでしょう。そしてその新しい時代の創り手こそが、今ここにいる皆さんです。

このように考えると、ここ一年、コロナのために失ったことばかりが強調され、印象に残りがちですが、この一年を中学校最後の年として過ごした皆さんだからこそ、別のことを感じ、思い、考えることができたのではないかと思います。

皆さんは、コロナ禍に際し、自分のことと同じように、人のことを大切にしてきました。未知の問題にぶつかったときに、これまで学んだ知識や経験を総動員して解決に当たってきました。そして、問題の解決のため、ご家族や仲間とともに、正に今このとき、未知の問題と戦っているのです。私はそういう皆さんを誇りに思っています。

卒業生の皆さん。皆さんが過ごしてきたこれまでの日々を、今一度思い起こし、未来に向けて大きく羽ばたいて行ってください。今日という日は、これから始まる皆さんの人生の最初の日です。

令和3年3月19日 清瀬市立清瀬中学校校長 小池 雄志郎

### 「卒業生別れの言葉」

頬に当たる和やかな風が、春の訪れを知らせる中、私たちは今日、多くのことを学んだこの清瀬中学校を卒業します。

思えば、新入生として、期待と不安を抱いて入学してから、驚くほど早く充実した三年間でした。一年の頃は上級生が真剣に練習し、感動を勝ち取る運動会、声の大きさに驚いた音楽祭など数々の行事や部活動、委員会活動に、私たちも協力し挑戦しようと思いました。

二年生になり後輩ができ、先輩達の引退に伴い、学校行事や生徒会、委員会、部活動の中心的存在になると、物事を遂行する責任と自覚が生まれました。一組との交流やスキー教室での思い出は一生の宝物です。一組ではマラソン大会や劇と音楽の会もすばらしい活動として記憶にあるでしょう。くじけそうになったことも何度かありましたが、仲間達の応援や思いやりに支えられました。

そして三年生の一年間。感染症予防のため臨時休校が明けたのは六月でした。清中生としての最後の行事や部活動の大会が中止になりました。しかし、みんなと会える学校での毎日はとても楽しかったし、充実していました。進路を考え、学習内容も深くなり、たいへんでしたが、この環境が嬉しいとも感じました。そして、唯一、学年で開けた音楽祭。マウスシールドを付けながら練習して臨んだとはいえ、みんなが感動するほどすばらしい思い出になりました。得られた賞よりも、仲間との強い絆ができたことを確信しました。

興奮冷めやらぬ私たちの前に進路という大きな壁が立ちました。日が迫るにつれ、心の余裕が消え、張り詰めていきます。そんな日々も明るく支えてくれた仲間達。感謝しても感謝しきれないこの気持ちは、これから先も忘れる

ことはないでしょう。

相談すれば親身に考えてくれた先生方。私たちが自分の手で次のステージをつかめたのは先生方、給食や事務の方々のおかげです。三年間本当にありがとうございました。

そして、私たちのそばにいて、支えてくれた大好きな家族のみんな、いつも温かく見守ってくれて本当にありがとうございました。

さて、在校生の皆さんには「愚公移山」という言葉を贈ります。たゆまぬ努力を続ければ、必ず成し遂げられるという意味です。皆さんもこれから先、さまざまな困難にぶつかるとは思いますが、あきらめず努力を続けてください。自分を信じて進んでください。そうすればきっと成し遂げられます。そして、私たちが入学の時教えていただいた「明日の自分を輝かせよう」が永久スローガンの、この清瀬中学校の伝統を引き継ぎ、より素晴らしい学校にしてください。

嬉しいとき、辛いとき、そばにいてくれた友達。時にはいさかきもあったけど、みんなと過ごした時間、みんなと作った笑いも涙も私の一生の宝物です。離れてしまう寂しさはあるけれども、今日を境に、それぞれの道へ踏み出します。でも、みんなとの思い出はどんなものにも代えられない大切なもの、大切な絆です。

今まで私たちを支え、育ててくれた全ての方々に感謝し、これからの清瀬中学校の未来を願い、別れの言葉とさせていただきます。

令和3年3月19日 卒業生代表

## ◆◆ 生徒の活躍 ◆◆

### ◇ 令和2年度 野田鎌田学園杉並高等専修学校主催「中学生レシピコンテスト」

入選 1年                      さん                      タイトル「定番弁当」

## ◆◆ 学校の様子 ◆◆

### ◇ 学校花壇の整備をしていただきました



3月6日(土)、PTAの皆様卒業式に向けて花壇の整備をしていただきました。色とりどりのお花がきれいに並んで、卒業生の前途を祝福してくれています。整備をしていただいた皆様ありがとうございました。

### ◇ 「3年生の話を聴く会」を開きました



3月8日(月)、2年生を対象に、進路選択を終えた3年生の話を聴く会を開きました。これは、先輩の話を聴くことによって、新年度に現中2生が新中3生としてスタートを切るための心構えや清中生としての母校愛や郷土愛を育むための取り組みです。お話を聞かせてくれた3年生の皆さんありがとうございました。

### ◇ 法教育プログラムを実施しました



3月15日(月)、東京第三弁護士会多摩支部のご協力により、3年生を対象に「法教育プログラム」を実施いたしました。この日のテーマは「『刑事裁判』裁判員になる皆さんへ」です。義務教育を終え、また一歩大きく大人に近づいた卒業生に送るプログラムでした。

## ◆◆ お知らせとお願い ◆◆

令和3年度の主な学校行事等の予定につきましては、過日お配りした「PTAだより」をご参照ください。「PTAだより」は学校ホームページからもご覧いただけます。最後になりましたが、保護者、地域の皆様には、春季休業中の子供たちの見守りをどうかよろしく願いいたします。